

(第3種郵便物認可)

有機の里で小川ワイン

「ワイナリー」の設立目指す

ふくしま ゆう そう
福島有造さん(45)

「有機の里」ともいわれる小川町でブドウ栽培、ワイナリーの設立を目指している。

群馬県出身。元銀行マン。切っ掛けは農業雑誌とテレビ。2010年、NHKの番組で、有機農業で全国に知られる同町の霜里農場の金子美登さんが紹介されていたのを見た。その後、農業雑誌に同町の地ビールの醸造所「麦糲穀工房マイクロブルワリー」の記事を見て、「有機農業の町でビールを造っているんだ」と知り、醸造所を訪ねたのが縁で有機農家を紹介された。研修先の

カリ純米大吟醸」を造って、自らネット販売もしている。

「ブドウ栽培の方法を確立したので、安定的な収穫ができることが実証できた。今は日本の料理に合う、

日本のワインが見直されている。将来は小川にワイナリーを造りたい。現在、武蔵ワイナリー設立のための「ワイン会員」を募集 중이다。

(磯田正重)



〇〇〇〇〇

農家では、農業全般を学んだという。もともと、「ワインを造りたい」との思いがあった。翌年4月から研修先の農家でブドウの栽培を始めた。シノダケの生い茂る未耕作地約3千平方メートルを整備、山ブドウの交配種「小公子」約1千本を植えた。1年目は収穫できなかった。2年後、わずかが約250kgを収穫した。

栃木県足利市のワイナリーに委託醸造。186本の地ワイン「小川小公子2013」を造った。特徴は酵母添加、ろ過をしない、補糖なしなど、いわゆる「自然派ワイン」。昨年は収穫量が減って、123本にとどまった。毎年、栽培は場を広げ、現在は2万1千平方メートル。今年は収穫量が増えて、1千本を目指している。

「雨よけの透明傘を付けたのが良かった」という。

一方、10年から地元の武蔵鶴酒造で、杜氏見習い、蔵人として酒造りに携わってきたが、この秋から杜氏として地酒造りにかかわる。また、3年前から自ら栽培した米、無農薬イセヒカリ100%を使い「イセヒ



ブドウを収穫する福島有造さん— 8月22日撮影、小川町小川のほ場

木材や建具の良さを知ってもらおうと、小川町小川の埼玉伝統工芸会館で9月27日、「木材建具まつり」が行われた。

主催は小川木材建具工業協同組合。組合員の作った建具やインテリア家具、木工製品の販売、骨組みを組み立てるながらの上棟の儀式を再現した「模擬上棟」、丸太を削って動物の木工作品に仕上げるチェーンソーアート、丸太切りコンテスト、マイ箸づくり、子どもたちの木工作品コンクールなど、多彩なイベントが行われ、大勢の観光客らでにぎわった。



木工製品の販売や箸づくり体験など

木材建具まつり



ち「小川町小川の埼玉伝統工芸会館

「オオスズメ」が、同埋子育で支援新「マー」

東松山市高第一土地区画せい市子育て「マー」がトブシした。

同市松本町援センター「武東上線東松

NEW Sienta 9月下旬レンタル開始 !!

TOYOTA がつくった スポーツバッグ

木工製品コン「合管内の小川、の3町村の小た。審査の結菅谷小4年の